

第2回 苫小牧市総合戦略推進会議 議事録要旨

- 【日 時】 平成27年8月19日（水）16:00～18:00
- 【場 所】 苫小牧市役所9階 議会大会議室
- 【出席者】 石橋会長、秋山委員、佐藤委員、廣島委員、山上委員、
戸川代理委員、今野委員、本庄委員、公地委員、井上委員、
加藤委員、田中委員、高野委員、辻田委員、肥高委員
（小島副委員長、坂田委員、甲谷委員欠席）
胆振総合振興局地域政策部 高見部長、
地域政策課 上原主事
苫小牧市 総合政策部 富田部長、政策推進室 町田室長、
政策推進課 小名課長、成田課長補佐、川合主査
デロイトトーマツコンサルティング 朝日、徳山、高橋

議 事 内 容

1 開会

【事務局から 会議概要等について、振り返りの説明】

【質疑】 なし

2 議題

(1) 人口動向分析等からの課題（更新版）

ア 前回意見のまとめ

イ アンケート結果ほか

ウ 結果のまとめ

【事務局から 資料1に沿って、一括説明】

【質疑】 なし

(2) 苫小牧が目指すべき将来の方向性

ア 目指すべき将来の方向（案）

【事務局から 資料1に沿って、説明】

<目指すべき方向>

- ①市内の雇用環境を維持・向上させるとともに、市内の住みやすさを改善し、札幌市をはじめとする若年層の転出を抑制する。
- ②子育て・教育しやすい環境を整備するとともに、結婚・子育て世代（特に女性）の転入を増やし、出生率を向上させる。
- ③生活環境を改善し、苫小牧市での暮らしのメリットをPRすることで、交流人口やUIJターンをより増加させる。

【質疑】 なし

イ 意見交換等

（委員）

苫小牧市で弱いのは、教育だと思う。札幌は多くの大学があり、進学できるレベルの高校も多くあり、苫小牧から札幌の学校に通っている方も多くいる。せっかく誘致し、優れた設備を持つ苫小牧駒澤大学で、ものづくりに結びつく学科を作れば、若い世代が4年間学び、就職して苫小牧市に住み続けることができるのではないか。

苫小牧市の治安の悪さについても、教育から来るところもある。まちづくりという観点では、防犯カメラを設置などすれば安心できる。

一時期、市内のある地域で毛シラミが流行したと聞いている。親が手を掛けない子どもから広がったと考えられるが、衛生上の教育や見守り体制が重要である。見守り体制は、学校や幼稚園、保育園が果たす役割が大きく、教育のさらなる充実が望まれる。

（委員）

苫小牧市が行っている先行型事業の効果と課題について、教えてもらえれば嬉しい。

苫小牧民報の千歳の記事で、切れ目の無い支援、妊娠、出産から子育てまでの22事業を行い、出生率を上げるとのこと。苫小牧市の場合は、何を行っていて、何を行っていないかを示してほしい。出生率を上げるため、婚活バスツアーなどを千歳市の主催で行っているという。苫小牧の特性を生かした方向性を考えていかないと、人口減少の解決は、難しいのではないか。

（事務局）

先行型の事業について、苫小牧市の特性を考えた上では、雇用を中心とした事業を展開し

ている。雇用する側と働く側の2つの面から実施しており、雇用のミスマッチを解消していく取組を実施している。今年度、1年間かけてやる事業になるので、その効果の検証については、3月に行う予定である。

(委員)

婚活ツアーについて、商工会議所含めていろいろとやっているが、PR不足で申し訳ないがぜひ利用して欲しい。

(委員)

雇用以外の面で何か取り組むことは考えていないのか。妊娠、出産、子育てという観点も取り組むけれども、大々的には扱わないということなのか。

(事務局)

先行型ということで、まずは雇用という観点から行っている。その次に子育てという観点を取り入れていきたいと考えている。

(委員)

アンケートの結果で、大学や学校に進学したいと答えている人が半分以上という状況で、高等教育を受けて市内で働く場所がほとんどない。高専とかを卒業して市内企業に勤めることはできても、文系の大学を卒業し就職できる企業は数える程度しかない。進学率が高くなっても、苫小牧市内で働く場がほとんどない状況では、その部分についての抑制というのは歯止めが効かないのではないか。

子育てや教育にお金がかかり過ぎると回答している人が60%という状況であり、子どもは一人でも構わないから、しっかりとした教育を受けさせたいと思えば、市内で働くところを探すことになる。そのときに仕事がないという状況にある。

方向性の①雇用、②子育てを大幅に変えるとか、全く違う方向性ができるとは思っていない。③移住について、高齢者の移住・定住というのは、ある程度は視野には入れているか。

(事務局)

データでは、苫小牧市の出入りについて、若い世代が中心であるが、高齢者についてもその中に含まれていると考えている。

(委員)

伊達市のように、高齢者を積極的に誘致するという政策を推進する予定があるのか。息子

や娘がいるから苫小牧に2世帯で住みたいというのは良いと思うが、大都市から単に高齢者を誘致するのは、社会保障費がかさみ、今住んでいる方々の社会保障にも影響を及ぼすと思われるが。

(事務局)

現段階で高齢者を積極的に誘致する考えは事務局にはないが、検討の余地はあると考えている。我々としては、東京に就職してみたものの30代になって北海道に戻ってきたいという人たちの取り込みに力を入れていきたいと考えている。

(委員)

エンジニアの人は再就職しようと思えばできると思うが、営業とか文系の者の再就職はなかなか難しい。市役所とかも社会人経験者の方を採用する試みは承知しているが、限界があると思う。自治体だけの問題ではなく、企業とかを巻き込みながら考える必要がある。

(委員)

企業としての社会貢献は、地元の雇用を増やすことだと思っている。我々としては、会社を大きくして、少しでも、地元の雇用を増やすべく努力している。

(委員)

教育という点で苫小牧市は物足りないと思っている。自分の娘も札幌の高校に行きたいと言っている。やはり、大学の学部の充実や、地元で進学できる環境が必要なのではないかな。

公園の数だけではなく、質も重要なのではないかな。子どもたちが安心して遊べる場所を作っていくのも、環境の整備になるのではないかなと思う。

活気のある苫小牧市を期待するという点について、「活気のある苫小牧市」とはどのようなになれば「活気のある」となるのか。その方向によって、目的も変わってくるのではないかな。

(事務局)

「活気のある」とは、具体的なイメージは現段階では示せないが、アンケートに答えてくれた方々は皆、今よりも「活気のある」苫小牧を求めている。「活気のある」とは、今後、様々な意見をもらって、決めていきたいと思う。

(委員)

方向性の②子育てについて、高齢出産をする女性が増えてきているが、出産に対する補助を手厚くすれば出生率は増えるのではないかな。方向性の③移住については、苫小牧は文化が

育ちにくいので、育つような配慮をする必要があるのではないか。方向性の優先順位としては、行いやすくお金がかからない③移住なのではないか。

(委員)

魅力のない都市には子どもは住みたがらない。せっかく苫小牧駒澤大学を誘致しているのに魅力のある学科がない。医療などの学科があれば良いと思う。工業都市苫小牧で生徒が就職するにあたって、インターンシップに非常に力を入れている学校がある一方で、受け入れる企業が限られており、協力を呼びかける必要がある。環境整備であれば、苫小牧の豊かな自然をもっとPRしていく必要がある。

(委員)

雇用という観点から、期間従業員という身分では、なかなか子育てという方向に進むことはできない。愛知などでは、ある会社で期間従業員として勤めた後、同業種の別会社において期間従業員として勤めることができる。このように、雇用という点で、少しでも若者が不安をもたないようにすることが、子育てに繋がっていくと考えている。

(委員)

大学の進学の問題、これが苫小牧市の課題なのではないかと思う。アンケート結果でも、「希望する学科がないから市外に進学する」と答えている者が76%の多数を占めている。子どもの進学先が自宅から通うことができれば、親の教育負担はかなり軽くなる。駒澤大学で、文系の別な学部、さらには総合学部などができれば、地元から通う子どもたちも増え、若者の他市への流出を防ぐことができるのではないか。

(委員)

長い観点では教育が重要と考える。教育という観点では、治安であったり、文化レベルであったり、将来のまちづくりにつながるのではないか。一方で、すぐにできる観点は、生活環境や雇用環境を良くすることと考える。若い人たちはドキドキ感がある場所に集まる。札幌市があれば人が集まるのは、サービス業が中心となっているから。苫小牧市は、ものづくりが中心であり、これを活かしたまちづくりをする必要がある。北海道は、製造業が非常に弱い地域であるが、苫小牧市は非常に強い地域である。ものづくりには、サービス業が付随しており、文系の就職先に繋がると考える。また、苫小牧ではスポーツ振興で他市と違ったまちづくりができるのではないか。もっと苫小牧の良いものをPRしたら良いと思う。

(委員)

教育が重要であると考えます。小学校、中学校、高校のレベルの全体的な底上げが大事である。落ちこぼれと言われる子どもたちを助ける必要がある。就職先がないというが、苫小牧には就職先は多くある。その中で、苫小牧に留めさせること考えると、大学というのは非常に大事ではあるが、今から国公立の工業大学を誘致するのは難しいので、例えば室蘭工業大学に進学を推奨し、流れを札幌の方向に行かせないこともありなのではないか。苫小牧市出身の若い世代が就職により、市から出て行く際に、どこでどういう仕事をしているのかを追跡するのも大事なのではないか。その中には地元に戻りたいと考えている者も多いと思う。苫小牧市民についていえば、「苫小牧市はこんなに良いところだ」と強く語る人は多くない。

(委員)

アンケート結果では、独身者の結婚しない理由として、「家族を養う収入がない」「経済的負担が大きい」といった理由が挙げられている。このことから、雇用の機会を拡大させることが非常に重要だと思う。また、市内の学生は、地元にある有名企業のことをあまりわかっていない者が多いと感じられる。高校生に対するインターンシップだけではなく、小学生、中学生に対しても「地元にはこのような魅力的な企業がある」ということを周知していく必要がある。

(委員)

優先順位をいうならば、方向性の①と③が重要である。人口が減るというのは避けられない。市から出ていく者を減らし、定着させる者を増やすような施策が重要である。新たに国立大学を誘致することは難しいと思うが、ものづくりという市の特徴に沿った大学の設立を検討する価値はあると考える。市から出て行く学生に対しても、市に戻ってくることを前提として、補助するというのも、Uターンを促進する一つの手段なのではないか。中心市街地の活性化を実現するためには、いろいろな企業が中心市街地に集まってくる必要があり、それに伴い、働き手となる文系の学生が必要になると考える。

(委員)

苫小牧市の人口規模はどれくらいを想定しているのか。それによって都市基盤整備も変わってくる。雇用も重要であり、企業誘致が必要不可欠である。だが、アルバイトとか期間従業員という雇用で留まらず、正規社員になれる雇用を整えるべきである。また、苫小牧市に住

みやすい、住みにくいという回答をもらっているが、この回答は西部地区なのか、東部地区なのか、どの地区からの回答なのかを明らかにする必要がある。男女別、年齢別などによる集計も重要である。

(事務局)

アンケートの属性別集約は可能である。結果は、次回報告する。

(委員)

苫小牧市は東西に長いという性質により、ある地域によっては買い物の利便性が良いという回答になったり、悪いという回答になったりする。その点を明らかにすることが望ましい。

(オブザーバー)

苫小牧市は交通の便も良く、人口も多く、経済環境も良い。どこの市町村も人口が減る中で、「女性」がキーワードになる。子育てしながら活躍できる場や多様な働き方の対応が必要である。

企業誘致すれば雇用は増えるが、正規雇用とは限らず、大きな企業であれば、より良い条件を求めて、さらに移転することもあり得る。地元企業を育てる観点も大切である。統計的には、1社創業すると、3～5人の雇用が生まれる。社会経験などを積んだ若者がUターンして起業を目指す風土づくりとして、学生時代に創業の勉強をする機会があっても良いのではないか。

(オブザーバー)

近隣の町から見れば、教育・医療・買い物・仕事も恵まれた地である。苫小牧市はこの地域のリーダー的な位置づけにある。ないものを求めるより、あるものでやっていくことが重要である。また、圏域で考える視点も必要である。

3 その他 次回の日程について

4 閉会